



4.質の高い教育をみんなに

シンポジウム「海と陸の豊かさー地球環境を考えるー」開催

自然科学研究教育センターは、地球環境を研究している4名の研究者を招き、2023年12月2日にシンポジウム「海と陸の豊かさー地球環境を考えるー」を開催しました。シンポジウムでは、神奈川県三浦半島にある小網代の谷（浦の川流域）での保全活動の現状や課題、海洋プラスチック研究、安定同位体分子の計測による環境理解、環境問題における国際法の役割について、それぞれの研究者が講演した後、質疑討論が行われました。

オープンセミナー「ブルーテックが変える日本の海」開催

2024年2月29日、新川崎先端研究教育連携スクエアと川崎市経済労働局は、オープンセミナー「ブルーテックが変える日本の海」を開催しました。ブルーテックとは、Blue Technologyの略称で、海洋分野での先端デジタル技術のことです。

海水温の変動とそれに伴う漁獲量の変化、「海の森」と言われる藻場が消失する磯焼けなど、問題が顕在化している中、海洋分野はデジタル化やIoT化が最も遅れていると言われており、ブルーテックの推進による課題解決やビジネス創出への期待が高まっています。

セミナーでは、ブルーテックに取り組む研究・実務の第一人者を招き、その取り組みの紹介や座談会を実施しました。



小泉信三記念講座*「カーボンニュートラル世代のサステナブル経営ー地域と大学の未来を見据えてー」開催

2023年11月9日、2023年度の小泉信三記念講座として、政策・メディア研究科 吉高まり非常勤講師（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社フェロー（サステナビリティ）、東京大学教養学部客員教授を兼任）による講演「カーボンニュートラル世代のサステナブル経営ー地域と大学の未来を見据えてー」が開催されました。

地球が抱えている気候変動や生物多様性喪失に対応する世界と日本の動向を踏まえた、高まる金融の役割、ESG投資やサステナブルファイナンスの基礎となる企業の非財務情報開示など、企業に求められるサステナブル経営のあり方について説明がありました。

また、2023年に閣議決定された「グリーントランスフォーメーション（GX）実現に向けた基本方針」を巡る地域での事例も紹介しつつ、GXにおいて大学に期待される役割と、カーボンニュートラルを実現するサステナブルな社会とはどのようなものかの提言もありました。

※故小泉信三博士の人と学問を記念して設けられた小泉基金により、全学的な総合講座として1968年より年に数回実施している公開講座。原則として予約は不要、聴講料無料で学外の方も参加可能です。



プロジェクト「キャンパス・バリアフリー探検隊～協生環境の実現をめざして～」実施

2023年10月から2024年3月にかけて、プロジェクト「キャンパス・バリアフリー探検隊～協生環境の実現をめざして～」を実施しました。

このプロジェクトは、障害当事者と一緒に関心を持ってキャンパスを巡りながら調査し、障害学生等の修学の妨げとなっているキャンパス内でのバリア（社会的障壁）を発見し、誰もが過ごしやすい、バリアフリーなキャンパスをつくるための提言を行うことを目的としています。

参加者は、まず2023年10月16日に事前研修として、DET（障害平等研修）を受講しました。障害平等研修フォーラムから障害当事者ファシリテーターをお招きし、ワークショップを通して、「障害の社会モデル」の考え方を学びました。

2023年12月には、三田・日吉・矢上キャンパスの調査を実施しました。実際に車いすに乗りながらキャンパス内を移動したり、弱視を体験できる眼鏡をかけながらキャンパス内を移動したりすることで、授業だけでなく、休み時間や課外活動を含めたキャンパスライフ全般を想定し、何が社会的障壁となるかを確認しました。

2024年3月14日の最終報告会では、障害の社会モデルの視点から現在のキャンパスを見直し、義塾全体として実現していくべきことを塾生が提言しました。

ハード面（施設面でのバリア）だけでなく、ソフト面（啓発活動、情報発信の方法など）についての解決策も提言され、実現可能性の高いアイデアが多く生み出されました。



卒業式・学位授与式・入学式における「@easeサポーター」の活躍

日吉記念館にて開催された、2022年度大学卒業式、大学院学位授与式、2023年度大学入学式、大学院入学式において、障害学生を支援する塾生スタッフである、「@easeサポーター」が、情報保障^{※1}の役割や介助が必要な方のサポートなどを担いました。

「@easeサポーター」は、主に慶應義塾に在籍している障害のある学生の支援や、バリアフリーに関する活動を行っている有償の塾生スタッフの総称で、専門の研修や訓練を受けています。

式典の情報保障では、場内スクリーンとYouTube配信の字幕の送り出しを行いました。字幕の送り出しは、captiOnline^{※2}という、筑波技術大学で開発された遠隔文字通訳システムを用い、登壇者の発言内容をリアルタイムで画面上に字幕として表出しました。

また、招待塾員^{※3}等で介助が必要な方のサポートなども行い、大変好評でした。

※1 聴覚や視覚などに障害のある人の「健常者と同じような情報が得られない」という困りごとに対し、手話・文字情報・ICT技術などを用い、本来得られるべき情報を保障することをいいます。

※2 筑波技術大学産業技術学部産業情報学科の若月大輔教授が開発した遠隔文字通訳システム。

※3 卒業式には卒業25年を迎える卒業生を、入学式には卒業50年を迎える卒業生を招待しています。



市民公開講座「一人ひとりの人生と共に歩む予防医療を～予防医療のアップデート～」開催

2024年1月21日、薬学部は、第3回がんプロフェッショナル研修会 市民公開講座「一人ひとりの人生と共に歩む予防医療を～予防医療のアップデート～」を開催しました。

講座はオンデマンド配信され、2023年に拡張移転した慶應義塾大学病院予防医療センターのプロジェクトの紹介などを通して、「健康格差」を生まないための予防医療への理解を深めました。

市民公開シンポジウム「再生医療の今、そして未来」開催

2023年10月14日、慶應義塾大学病院臨床研究推進センターは、市民公開シンポジウム「再生医療の今、そして未来」を開催しました。

再生医療等製品は、有効な治療方法が存在しない難病を治療できる可能性が期待されており、日本でも多くの研究者が実用化に向けた臨床試験や病院体制の整備等を進めています。慶應義塾大学病院でも、iPS細胞を用いた臨床試験の実施や再生医療等製品の原料として必要な細胞を製薬企業等へ安定的に供給するための仕組みづくりに取り組んでいます。本シンポジウムでは、第一線で活躍している研究者を招き、最新の再生医療についての講演と、慶應義塾大学病院での取り組みを紹介しました。

藤沢市民講座開催

2023年11～12月、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)と藤沢市は、藤沢市民講座(生涯教育講座)を開催しました。計3回の講座を通じて、藤沢市の明るい未来を築いていくための手立てについて議論するとともに、近年、地域づくりのキーワードとして注目されているウェルビーイング(Well-being)への理解を深めました。

第1回「健康で生き活きと働くために：ワーク・エンゲイジメントに注目して」

第2回「健幸(ウェルビーイング)でいるためのコミュニティを考える」

第3回「みんなで築く元気なまち ～アクティブリビング&ウェルビーイング～」

「第4回 KEIO SPORTS SDGs シンポジウム2024」開催

2024年3月9日、「第4回 KEIO SPORTS SDGs シンポジウム2024」を開催しました。2023年度のKEIO SPORTS SDGsの進捗報告、具体的取り組みの共有を行うとともに、『パブリックヘルスの視点から見るスポーツSDGs』、『慶應義塾とスポーツSDGs』という2つのセッションを通じてKEIO SPORTS SDGsの新コンセプトを共有し、持続可能なスポーツの新たな価値について考え、多様なステークホルダーとの連携を深めました。本シンポジウムには200名以上の申し込みがあり、セッションの討論では、参加者からの質問を取り上げながらモデレーターと演者との間で活発なディスカッションが行われました。

KEIO SPORTS SDGs: <https://sportssdgs.keio.ac.jp/>



講演ごとに皆で立ち上がって拍手し、座位ブレイク(座りっぱなしを中断)している様子

シンポジウム「BLS (Basic Life Support) 教育の実践と社会的意義」開催

2024年3月2日、慶應義塾一貫教育校BLS委員会と慶應義塾大学スポーツ医学研究センターは、シンポジウム「BLS (Basic Life Support) 教育の実践と社会的意義」を開催しました。BLSとは、心肺停止または呼吸停止に対してAED(自動体外式除細動器)以外の特殊な医療器具を使用しないで行う一次救命処置のことです。慶應義塾の一貫教育校では、2002年よりBLSの体系的な教育を開始し、小学校から高校の各段階で、心肺蘇生法、AEDの操作方法等の実習を行っています。本シンポジウムでは、教育現場におけるBLS教育のさらなる幅広い浸透を目指し、慶應義塾におけるBLS教育の紹介とBLS教育の意義について講演やパネルディスカッションを行いました。

慶應義塾大学理工学部Girls Science Club 2023 開催

2023年8月22日、理工学部のジェンダーアンバランスの解消を目的の一つとして、女子中高生とその保護者を対象に、化学実験体験と先輩女子学生やOGとの座談会、保護者と教職員の懇談会を開催しました。実際の環境で活動すること、学生と直接話をするこで、理工学部での大学生活がどのようなものか知ってもらう機会となりました。

